

世界に羽ばたけ！ 米山学友⑪

ネパールの農業発展に力を尽くす

日本の農業に学べ

1997年6月、国際協力機構（JICA）の研修生として来日したラム・チャンドラ・ブサルさんは、日本の発達した農業技術に驚嘆し、強く心引かれました。

ネパール・タナフ郡の農業普及員として働いていた彼の派遣された先は、愛媛県農林水産研究所果樹研究センター。柑橘類の品種改良を手がけ、新しい農業生産技術を開発する研究機関でした。子どものころから両親の農業を手伝い、地元の農業高校から大学に進学して園芸学を学んだブサルさんにとって、農家の生産性向上は大きな課題。ネパールでは就労人口の6割以上が農業に従事していますが、生産性の低さから十分な収入を得られず、貧困に苦しむ人が多いのです。

「この優れた栽培技術を学び、ネパールの農業の発展に生かしたい」——。彼は10か月間の研修終了後、愛媛大学大学院で柑橘学を研究することを決め、98年4月、私費留学生として農学研究科修士課程に入学しました。

親子別離の日々

留学当初は見るものすべてが新鮮でしたが、私費留学生としての生活は想像以上に厳しいものでした。

毎朝4時前に起きて新聞配達のアルバイトをし、講義後はレストランで夜遅くまで働く毎日。それでも学費と生活費は十分ではなく、1年後、夫の苦境を見かねた妻のシタさんが来日し、パートの仕事をして研究を支えてくれました。しかし、それは夫妻にとって新たな試練の始まりでした。まだ9歳と7歳、2歳の幼い娘たちをシタさんの姉に託して来なければならなかったのです。

ネパール政府から許された休職期間は5年間。家族の絆を信じ、離ればなれの生活を耐え忍んでくれている娘たちのためにも、5年のうちに学位を取らなければ——。時間のプレッシャーとの闘いが続きました。

クラブからの思いがけないプレゼント

苦しい生活の中、ロータリー米山記念奨学金合格の知らせは、ブサルさんにとって「人生で忘れられない日の一つ」となるほどうれしいものでした。

世話クラブの北条ロータリークラブ（RC）は、研究室のある大学付属の農場に近く、カウンセラーの重見誠吾氏は、よく研究室を訪ねて、食料や日用品を差し入れてくれたほか、生活や研究の様子、家族のことなどをいつも気遣ってくれました。ブサルさんにとって、重見氏は「何でも話し、共有できる良き理解者」でした。

例会には、指導教員の水谷房雄教授も何度か招かれました。ブサルさんへの温かい支援と、彼以外の留学生にも声



日本の技術を導入し、トマトの栽培研究をするブサルさん（右）

かけ、いろいろな催しに招いてくれる北条RCの気遣いに感銘を受け、水谷教授は、その後クラブに入会。ブサルさんをきっかけに、ロータリーの輪が広がりました。

そして、ロータリアンとの交流は、ブサルさん夫妻に大きな幸せをもたらしました。妻を娘たちに会わせるため、一時帰国させようと計画していたところ、それを聞いた重見氏が「子どもたちを招待しては？」と提案。氏の呼びかけに会員皆が賛同し、3人の娘たちと、シタさんの姉をクラブで招待することになったのです。

「夫の研究のために日本で一生懸命に働くシタさんの内助の功に、皆が感動していました。夫妻への好意が、娘さんたちの招待という大きなプレゼントになったのだ

「農業は国の基本」と言われますが、就労人口の6割以上が農業に従事するネパールでは、まさに農業の発展が国民生活改善の鍵を握ります。ラム・チャンドラ・ブサルさんは、母国の農業発展のために日本に留学し、現在はその知識や技術を生かして、さまざまな農業開発プロジェクトに携わっています。彼が日本留学で得たものは、専門知識や学位だけでなく、家族との強い絆、そして日本の人々との深い友情でした。



と思います」と、重見氏は語ります。

こうして娘たちと1年半ぶりに再会し、研究に打ち込んだブサルさんは修士号を取得。米山記念奨学金は終了し、別の奨学金を得て博士課程に進みましたが、その奨学金の情報を教えてくれたのも、世話クラブのロータリアンでした。2003年3月、無事5年間で博士号を取得、その年の8月に夫妻は帰国の途につきました。

ロータリーの支援を受けた親善大使として

帰国後、政府の中央園芸開発センターに復職したものの、そこでは研究の成果を生かすことが難しく、より高度な専門職を目指して、アメリカに本部を置く国際NGO・Winrock International ネパール支部に転職。現在はネパール農業・共同組合省が主導し、米国国際開発庁(USAID)が支援する農業研究開発プロジェクトのコーディネーターとして、新しい農業技術と高付加価値作物の生産で農家の増収を図り、貧しい人々の生活を改善しようと取り組んでいます。

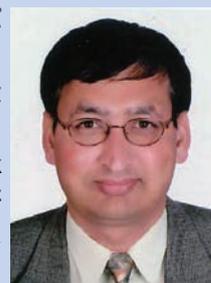
09年は、安価で簡単な設備で失敗の少ない高品質のトマトが生産できる「トマト袋培地栽培技術」をネパールで初めて導入。9月から3か月間、愛媛大学の客員研究員として再来日し、この技術を導入している栽培農家などを視察しました。ネパールでの栽培実験の経過も良好で、技術の実用化に期待が寄せられています。

「多くの支援を受け、これからは私が、母国の貧しい

プロフィール

ラム・チャンドラ・ブサル さん

(1999 - 2000年 / 北条RC)ネパール出身。JICA研修生として1997年に来日。98年に愛媛大学大学院農学研究科に私費留学。現在は、国際NGO・Winrock Internationalのネパール農業研究開発プロジェクトのコーディネーターとして活躍している。



人のために何ができるかを考えるときです。すでに専門的な分野で準備を始めていますが、学校建設や飲料水の提供、教育、医療、栄養についての啓もうや所得創出にも取り組んでいきたい」と語ります。

ネパールでは、農家の少年が上級専門職に就くのはごくまれ。それを実現させてくれた日本の人々の恩に報いたいと、在ネパール日本大使館をはじめ関係機関に協力し、両国の友好を深める活動にも尽力しています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見は、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281

Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

駐日韓国大使がロータリー研究会であいさつ



権駐日韓国大使が開会式であいさつ

11月19日、東京・台場で開催されたロータリー研究会の開会式で、現役の駐日韓国大使を務める米山学友、^{クワン・チルヒョ}権哲賢さんが壇上に立ちました。冒頭で韓国・釜山市で起きた室内射撃場火災事故への深い哀悼の意を表明。奨学生時代の思い出として、世話クラブの佐野東ロータリークラブが開いてくれたお別れ会で、会員が手を高く差し伸べてつくってくれたトンネルをくぐりながら「権さん！ 韓国の大統領になって戻って来い！」と激励されたエピソードに触れ、「皆さんの期待がその後の私を支えてくれた。ロータリーの精神や米山奨学金制度は、世界平和につながる一つの大きな道だと思います」と語り、会場から大きな拍手を受けました。